

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-316528

(P2000-316528A)

(43) 公開日 平成12年11月21日 (2000. 11. 21)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード* (参考)
A 2 3 L 1/30		A 2 3 L 1/30	B 4 B 0 1 6
	1/212		Z 4 B 0 1 8
A 6 1 K 35/50		A 6 1 K 35/50	4 C 0 8 7
	35/72		4 C 0 8 8
	35/78		C
審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願平11-164268

(22) 出願日 平成11年5月6日 (1999. 5. 6)

(71) 出願人 599080328

藤井 武司

北海道茅部郡森町字上台町208番地の2

(72) 発明者 藤井 武司

北海道茅部郡森町字上台町208番地の2

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 生殖機能増強栄養補助食品

(57) 【要約】

【課題】 この発明は、人間男女の生殖機能を高めるための副作用のない安全な生殖機能増強栄養補助食品に関するものである。

【解決手段】 ペルー国アンデス地域で栽培されたアブラナ科レビディウム属の根菜類で通称マカ（学名：Lepidium Meyenii waip）と呼ばれる植物の直根と胚軸部を乾燥して粉末にしたものと亜鉛を含む酵母と南米アマゾン川流域を原産とする植物ガラナ（学名：Paullinia cupana）の実を粉末化したものと咄乳動物の胎盤から抽出加工された粉末ブラセンタを混合する。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】ペルー国アンデス地域で栽培されたアブラナ科レビディウム属の根菜類で通称マカ（学名：Lepidium Meyenii waip）と呼ばれる植物の直根と胚軸部を乾燥して粉末にしたものと亜鉛を含む酵母と南米アマゾン川流域を原産とする植物ガラナ（学名：Paullinia cupana）の実を粉末化したものと哺乳動物の胎盤から抽出加工された粉末ブラセンタの混合物による生殖機能増強栄養補助食品。

## 【発明の詳細な説明】

## 【発明の属する技術分野】

【0001】この発明は、ペルー国アンデス地域で栽培された通称マカと呼ばれる根菜類の植物の直根と胚軸部を乾燥し粉末にしたものと亜鉛を含む酵母とガラナの粉末とブラセンタ抽出物粉末の混合物による生殖機能増強栄養補助食品に関するものである。

## 【0002】

【従来技術】滋養強壮補助食品は古今東西いろいろ開発されている。近年アメリカ合衆国の薬品メーカーファイザー社が開発したバイアグラ（ファイザー社のトレードマーク以下バイアグラと略す）が男性の性機能回復剤として注目されていることは周知である。本発明の生殖機能増強栄養補助食品の主成分であるマカもペルー国では強壮剤として、粉末にしたり粉末を固形物にして愛用されている。

## 【発明が解決しようとする課題】

【0003】バイアグラの男性性器の勃起力に著しい効果があると多くの愛用者が生まれたが副作用による死亡者がでたことで愛用者は不安な状態に陥った。そこでわが国においても医薬品として販売の許可をだしたが、愛用希望者は医師の診断を受けることが義務付けされた。愛用者は性の問題だけになかなか医師の診断を受けにくいと思っているそこで不法に入手することが行われていて、最近でもバイアグラによる死亡事故が発生して不正入手で服用したことが判明し報道され、社会問題となっている。そこで愛用希望者はより安全な強壮剤を探し求めている。そして、ペルー国のマカに強壮効果あることに注目し、その粉末や錠剤が現在販売されているがバイアグラと比較するとその効果はやはり劣り、バイアグラに近い効果がありかつ副作用のない安全な滋養強壮剤の出現が切望されている。本発明はこうした強い要望に応えるべく発明されたのである。又、近年若い男性の生殖機能の弱体により精子の減少等が問題視されている。女性においても不妊症等が深刻な悩みとなっている。本発明はこのような人間の本能である自然な営みの性の悩みを少しでも解決すべく発明されたものである。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】いま、その構成を説明すると、

（イ）ペルー国アンデス地域で栽培されたアブラナ科レ

ビディウム属の根菜類で通称マカと呼ばれる植物の直根と胚軸部を乾燥し、粉末状にする。

（ロ）（イ）における粉末と亜鉛を含む酵母とガラナの粉末と、ブラセンタの粉末を混合する。

【0005】次に本発明の実施方法について述べる。

（イ）ペルー国アンデス地域で栽培されたアブラナ科レビディウム属の根菜類で通称マカと呼ばれる植物の直根と胚軸部を乾燥し粉末にしたものと亜鉛を含む酵母とガラナの粉末とブラセンタの粉末を混合する。詳しくはマカの粉末量に対して亜鉛を含む酵母およびガラナの粉末、ブラセンタの粉末はそれぞれ約1%を混入することが適当である。

（ロ）本発明の生殖機能増強栄養補助食品は、粉末状でも顆粒状又は乾燥固形物又は、液体状でもよい。

## 【0006】

## 【発明の効果】実施例1

44才の男性が一粒300mgの錠剤を一日2回にわけて十粒を三日間食べた結果一日目の早朝性器の著しい勃起があった。この男性はそれまでは早朝の性器の勃起はなかった。

## 実施例2

58才の男性に実施例1と同じ条件で行った結果同じ結果を得ることができた。その後約1ヶ月の服用の結果体調の良好を報告している。

## 実施例3

さらに10名の男性にテストした結果勃起効果は1～3日目からに効果が現れた。効果が現れる時期に差があるのは各自の体調や潜在的能力の差の現れであると考えられる。現在市販されているマカ粉末100%のものは3日目より効果がでると説明されている。本発明品は従来品と比較するとわずか1～2日の効果が早くでる結果であるが愛用者にとってこの少しでも早く効果がでることは大きな精神的メリットになるのである。また、本発明品の名称を生殖機能増強栄養補助食品としたのは、単に不能になった性器を勃起させるだけの目的ではなく、先にも述べたように現在の若者の精子の減少化、不妊症等生殖機能の衰え弱体化を改善が目的であり、また、高齢化長寿社会における老人の活性化、壮年期における夫婦の性生活改善に役立つものであると確証を得るに至った。さらに詳しく説明すると、マカに関して、ペルー大使館の資料によると以下の通りである。

## 【化学成分と薬学上の特性】

《成分》アルカロイド、アントシアニン、サポニン、テルペノイド、ステロイド、デキストリン（出所：ラモン・ソリス・ホスピナル著『ボンボン高原のマカ生産』）

《属性》最も一般的な属性は下記の通り：エネルギー源、活力源、再生源。肉体と精神の均衡保持によく効く。集中力と記憶力を向上させる。ストレスと疲労を減らす。免疫システムの強化。月経周期を正常化し、卵子の増殖、多産のきっかけになる。SPMを削減。精子形

成の増進。閉経前後の症状の低減。セックスライフの質的向上。又、亜鉛に関して岡田勢一著『驚異の亜鉛食パワ－』遊タイム出版によると、

〔亜鉛は男の金属〕亜鉛不足は糖尿病の原因であることは先に述べた通りです。糖尿病になると精力が減退するので、「男はいつも強くはならない」と虚勢を張る男性のなかには、自分が糖尿病であることを隠している人もいます。精力減退は、突然やってきます。それは糖尿病のせいだけではなく、ストレスの蓄積のせいでもあるのです。ストレスが蓄積すると、体内の亜鉛を大量に消耗します。アメリカでは、亜鉛を中心にした総合栄養剤が、“セックスミネラル”として、また、“男の金属”として飛ぶように売られているそうです。とにかく精力が減退したと感じたら、亜鉛不足を疑うべきです。

〔女性も亜鉛は必要〕女性の場合においても、女性ホルモンの合成に亜鉛は深く関わっているし、卵巣には亜鉛がたくさん含まれています。女性においても亜鉛は正常な生殖活動に欠かせないのです。わが国では小児化が進んでいるように見えます。これは産もうとしても産めない体になっている可能性もあります。亜鉛が欠乏すると妊娠しにくくなります。また、卵巣の働きが悪くなって、生理不順が多くなります。男性が元気な精子をつくれなくなり、女性も亜鉛不足を起こしているとなると、事態は深刻です。とされている。ブラセンタに関して、水野義一著（吉田建太郎監修）『驚異のブラセンタエキス』によると、

〔こんなにある！ブラセンタエキスの臨床作用〕ブラセンタエキスには、非常に数多くの薬効があることは、これまで折に触れて説明してきました。ここで、その作用と、臨床的に効果があったと確認されている病気を、あらためてまとめておきましょう。ブラセンタエキスの主な作用は、

- (1) 肝臓の細胞再生を促進して機能を強化する。
- (2) 造血組織を刺激する。
- (3) 自律神経の乱れを元に戻す。
- (4) ホルモンの分泌を正常レベルに戻す。
- (5) 乳腺の発育を促進し、乳汁の分泌を良くする。
- (6) 乳幼児の発育を促進する。
- (7) 傷に回復、グリコーゲンの形成を早める。
- (8) 血行を促進する。
- (9) 利尿作用

などがあります。その結果として、効果のある臨床報告には、次のようなものがあります。

- (1) 肝硬変の予防
- (2) 吹き出物、湿疹、シミ、ソバカスの予防と改善
- (3) 貧血
- (4) 更年期障害
- (5) 生理不順
- (6) 糖尿病

- (7) 虚弱体質、病中病後の体力回復
- (8) 皮膚や粘膜の傷の修復
- (9) 冷え性や痔
- (10) ネフローゼ、高血圧
- (11) 胃潰瘍、十二指腸潰瘍
- (12) 歯周病、歯槽膿漏
- (13) 便秘
- (14) ワキガ
- (15) 強壮、強精
- (16) 精力減退、インポテンツ
- (17) 若返り（老化を遅らせる）
- (18) 感染症に対する抵抗力増進
- (19) アトピー性皮膚炎
- (20) アレルギーの改善

ガラナに関して、ガラナは、ブラジル・アマゾン川流域が原産地の植物で、現地のインディオはその実を粉末にして愛用している。カフェイン、タンニンを含み「不老長寿の秘薬」といわれている。ガラナのカテキンはアルツハイマー病に効くと、ガラナのカテキンについての研究発表が1996年4月12日の日経産業新聞に次のように掲載された。「アルツハイマー病の誘因物質、毒性抑える成分発見—東大、「ガラナ」から抽出」東京大学分子細胞生物学研究所の瀬戸治男教授らの研究グループは、アルツハイマー病を引き起こすと生薬からの抽出物で、ネズミの脳の培養細胞を使った実験でベータアミロイドの毒から神経細胞を守る働きを確認した。痴呆症防止に利用できる可能性もあるとして、動物実験に乗り出す。有効成分はタンニンの母体であるカテキンという物質の一種。アマゾン地方で強壮剤として使われている植物「ガラナ」の実に含まれており、有機溶媒で抽出した。数千に及ぶ植物や微生物の成分を試したが、ガラナからとったカテキンが最も良く効いた。ネズミの脳の培養細胞にベータアミロイドの毒性を抑える物質として知られているトコフェロール（ビタミンE）よりも効果は強かった。ベータアミロイドは細胞の呼吸を妨げる作用もあるが、培地にカテキンを加えると呼吸は回復した。研究グループは、カテキンがベータアミロイドの毒性を抑える薬剤として使える可能性もあるとみて、今後はカテキンが生物の体内でどう動くかなどを動物実験を進める計画。アルツハイマー病は神経が死に、脳が萎縮していく痴呆症の一種。ベータアミロイドという物質が神経細胞に沈着して障害を引き起こすと考えられている。以上のように本発明の生殖機能増強栄養補助食品を構成する物質の特性を参考文献の引用をもって示した。それぞれの物質は医療に又健康食品としてすでに公知であるが、本発明の課題でものべたその目的達成には満足を得る物ものはなかった。よって本発明の構成をもってすれば、実施例でも示したようにその目的を達成することを得たのである。

フロントページの続き

(51)Int.Cl.

識別記号

F 1

キーワード(参考)

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 15/00

F ターム(参考) 4B016 LC07 LE02 LG01 LG06 LK16  
LK18 LP01 LP02  
4B018 LE03 MD48 MD53 MD69 MD81  
ME02 MF01  
4C087 AA01 BB58 BC11 CA06 CA09  
MA34 MA41 MA43 MA52 NA14  
ZA81  
4C088 AB12 AB15 AC03 AC04 AC11  
AD13 AD17 BA03 BA04 BA07  
MA08 MA52 NA14 ZA81 ZC21